

神戸大学が推進し、空調消費エネルギーを約40%超削減する 「AIスマート空調」の確実な社会実装にJDSCが技術提供

株式会社 JDSC（本社：東京都文京区、代表取締役：加藤 エルテス 聡志、以下「JDSC」）は、国立大学法人神戸大学（所在地：神戸市、学長：藤澤 正人、以下「神戸大学」）が推進する「AIスマート空調」の社会実装において、神戸大学発のスタートアップ K O B E イノベーションガレッジ合同会社（本社：神戸市、代表：長廣 剛）とともに技術提供します。JDSCは、所有するAIとデータサイエンスの高い技術力とコンソーシアムの知見を活用し、「AIスマート空調」のエラーや不具合検出の自動化とアルゴリズムの改良を支援し、本技術の更なる高度化と普及拡大を通じて、CO2排出削減によるエネルギー効率の高い社会の実現を目指します。

「AIスマート空調」は、IoTデータ等を用い、外気温や人流、顧客の服装などから熱需要を予測することで、快適性を保ちながらエネルギー消費を抑制する空調制御技術で、神戸大学の実証実験では約40%を超える空調消費エネルギーの大幅削減に成功しました。本技術の更なる高度化には、取得したデータの分析によるエラーや不具合の解消が必要である一方、供給系・需要系・気流系など複数のモジュールによって構成された複雑なシステムであるため、不具合の原因特定には高度な専門性が必要です。

JDSCは、これまでも [ダイキン工業株式会社と空調機器のIoTデータを用いた不具合監視・運転異常予兆検出AIを共同開発](#)し、AIを活用した空調への取り組みを実現しており、豊富な知見や技術を保有しています。

神戸大学カーボンニュートラル推進本部（研究・社会共創部門）特命教授の長廣 剛氏は次のように述べています。

「『AIスマート空調』の確実な運用と社会実装の加速に向けて、JDSCが持つAIおよびデータサイエンスの技術に期待しています」

JDSCは、今後も蓄積されたデータサイエンスの知見を基に、AIや機械学習、数理最適化などの先端技術を社会実装することで、産学官や業界を問わず課題解決を推進し、日本のアップグレードに貢献していきます。

以上

【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

株式会社 JDSC 広報担当 info@jdsc.ai